



# 参加型で学ぶジェンダー教育

- ・「わたしの声 と みんなの声」プログラム
- ・「大好きなわたし」プログラム

## 少女が変われば、 世界が変わる。

一世代の価値観が変われば、社会は変わります。

「女の子はこうあるべき」「男の子はこういうもの」というジェンダーに基づく思い込みや偏見は、何かに挑戦する気持ちを阻み、不平等を生み出します。

不平等は、差別や暴力を受けるリスクを高め、人生の選択肢を狭めます。

性別に関係なく、互いを尊重し合う人間関係を推進し、一人ひとりが可能性を最大限に発揮できる社会、そしてその担い手が必要です。

持続可能な開発目標 (SDGs) の一つである、【SDG5 ジェンダー平等の実現】は、少女と女性に対するあらゆる形態の差別をなくす取り組みです。

SDG5は、他の目標に対して波及効果があり、すべての基盤です。



## 少女たちの目に映っている社会は？

ジェンダー平等指数\*で121位の日本。日本での女性の参画が特に低いのは政治と経済分野。政治は「社会のありよう」を決め、経済はニーズを満たし人を幸せにする活動です。教育の場面は一見平等に見えますが、無意識の偏見により、機会が制限されている現実もあります。 \*世界経済フォーラム2019年12月発表 日本は153カ国中121位

### 01 暴力の被害

公共の場所で性的な嫌がらせや性差別を経験したり見たりする女子高校生



ガールスカウト日本連盟 女子高校生調査2019より

子ども・若者\*の強制わいせつ被害



その中で、小学生の被害が最も多い。

大阪府警察 平成30年中の性犯罪の発生状況より  
\*子ども・若者—中学生、高校生、大学生、専修学校生など

児童虐待の被害者のうち性的被害を受けた割合



警察庁 2020年3月12日発表 児童虐待件数より

### 02 男女の格差 社会の現状

企業の部長職にいる女性



内閣府 女性の政策・方針決定参画状況調べ 平成30年より

工学部の女子学生割合



理数系は、男性の学問だというステレオタイプがある。(高校生女子)

文部科学省 平成30年学校基本調査より

男性を100とした時の女性の給与水準



**73.3**

内閣府 男女共同参画白書令和元年版より

### 03 こころの中

家庭科は男子より女子の方が得意だと思う女子



男女共同参画小学生意識調査 大阪府大東市平成29年より

女子の生徒会長(中学生)



女子生徒は自分のやりたいことを自らの性別役割分担意識で制限している可能性もある。

滋賀県大津市調べ 2018年度より

女子高校生の自己肯定感は男子の約半数

今の自分に満足している女子

男子 12% 女子 **5.6%**



国立青少年教育振興機構 高校生の心と体の健康に関する意識調査2018年度より



**キーワード** ジェンダー・女らしさ・男らしさ・少女を性的対象として扱う表現・スクールセクハラ  
身近な大人からの性被害・児童虐待・性犯罪・デートDV・LGBT理解  
性的な画像や動画(写メ)の撮影、投稿・隠れたカリキュラム\*

\*学校で公式のカリキュラムとして教育する側が明示的に教える内容以外に学校生活や教師の言葉や態度を通して、子ども達が学びとっていく規範や価値観、信念などのこと。持ち物の色指定、男女別の科目や活動、ステレオタイプに基づく声かけの違いなど。



ジェンダーの問題は、男女共に向き合う問題です。総じて、女性の地位が男性に比べて低いと、ここでは女性に焦点を当てて記載しています。実際には少年や男性も多くの否定的なメッセージや期待を受け、生きづらさを感じています。また、彼らの中にも暴力の被害者がいます。

すべての人が可能性を最大限に伸ばすために

## 人権侵害を解決する

少女たちは、女性というだけで差別的な暴言や扱いを受けています。その場面は、公共の場所、メディアやインターネット、そして学校など、日常生活の中にあふれています。少女に対する暴力は、身体や心、人間関係、学校生活、そして将来に影響を与え、彼女たちの尊厳を奪います。

差別や暴力の被害を受けるのではないかという不安に怯えて暮らすことは、少女たちの人生に計り知れない影響をもたらします。

多くの少女が日常的に受けている、「女の子だから～しなくてもいい」「女の子は～できない」というメッセージ。性別によってどうあるべきかという価値観を押し付けられると、それが彼女たちの中で当たり前になり、何かに挑戦する気持ちにブレーキがかかります。「しかたない」「大したことはない」そして「悪気はなかった」としてこれまで見過ごされ、問題とされなかったことに向き合うことが必要です。

### + 原因はどこにあるのか

社会におけるジェンダーによる思い込みや偏見、刷り込みは、男女に異なる役割や行動を期待し、強化します。そして社会が女性と男性のあり方を決め、不平等を生み出しています。

こうした不平等は、少女や女性が暴力に直面した際、困難な状況から抜け出す力や支援を求める力を弱めています。



### 📍 変化を起こす方法

ガールスカウトとUN Women\*が協働開発した教育プログラムは**価値観や習慣**、社会に受け継がれてきた行動様式などに変化をもたらすことをねらいにしています。

人々の心や行動に根付いた価値観に向き合うためには、**体験学習**が効果的です。単に知識を得るだけでは、人の価値観や行動に及ぼす影響には限界があるからです。主体的に**自分ごと**としてとらえ、考え、仲間とのやり取りを通して深め、そして楽しみながら取り組むワークショップのスタイルで進めます。(アクティブ・ラーニング)

少女たち自身が解決に向けて行動することを支援する、変化の担い手を育てるプログラムです。

\*UN Women

ジェンダー平等と女性のエンパワメントを促進するための国連機関

### 📝 教育プログラムが目指すもの

#### 01.知る

ジェンダーの不平等に起因する問題について理解し、自らの権利を学ぶ。

#### 02.声をあげる

同年代(ピア)で、問題解決のために行動を起こせるようになる。

#### 03.そなえる

自分や友達が差別や暴力に直面した時にそなえ、スキルを高める。

## ジェンダー平等をめざすための年代別教育プログラム

子どもの発達段階に合わせた、必要な教育をワークショップ（参加型学習）形式でおこないます。このプログラムは、知識を中心に教え込む従来の学習形態と異なり、どの発達段階においても自ら考え、話し合いなどの体験を通して学びます。

- 01.知る** ジェンダーの不平等に起因する問題について理解し、自らの権利を学ぶ。
- 02.声をあげる** 同年代（ピア）で、問題解決のために行動を起こせるようになる。
- 03.そなえる** 自分や友達が差別や暴力に直面した時にそなえ、スキルを高める。

### 小学校 低学年・高学年 向けプログラム

この年代の少女でさえ、「女の子なら～」というジェンダーの偏りがみられ差別や暴力の影響を受けています。子どもたちが安心して学べるように、イラストを用いたワークやアクティビティをおこないます。



#### おもちゃ（低学年）・遊びのルール（高学年）

日頃よく触れているおもちゃや絵本、アニメなどに「女の子」や「男の子」がどのように表現されているかを考えるワーク。

遊びの場面のカードを使い、男女に対する固定観念がどのように影響しているか、男女の生活や成長をどのように制限しているかを考えます。遊びの中で、ジェンダーの固定観念にとらわれず、やりたいことを楽しめるようになることを目指します。



#### 絶対反対（高学年）

自分の意に反すること、不快に感じるおこない、危険を感じたときにどう対応すればいいかを学びます。

さまざまな場面のカードを使い、実際に声を出し、イヤだと思っていることを伝える体験をします。

自分の身に危険を感じたときの対応も学びます。



場面や状況、相手を想定したカードで、自分はどのように対応するかを考えます。

### 小学生の気づき

プログラムの中で少女が、サッカーボールのイラストを見て、『やっぱり男の子の中に、女子が一人混じったら、変って思われるかなって心配』と言いました。また『男子が人形遊びしてたら、「ん？」って一瞬思ってしまうかも』と言いました。

しかし、『お姉ちゃんと一緒に弟も人形で遊んだりするし、別にいいと思う』『私は、昼休みにクラスの男子とドッジボールしてるよ!』という少女の声を聞くと、参加者たちは、『私は外で遊ぶ方が好き』『自分の好きなもので遊んだらいいよね』と、参加者それぞれが自分の中にある「女らしい」「男らしい」の枠組みを取り払っていきました。



## 6つのステップと学習成果



**1.はじめよう**  
参加する準備



**2.考えよう**  
ジェンダーの平等と  
自分について考える



**3.理解しよう**  
差別と暴力のさまざ  
まな形態を理解する



**4.力になるう**  
互いを尊重する関係  
について理解する



**5.声をあげよう**  
少女の権利について  
声をあげる



**6.行動を起こそう**  
差別と暴力をなくす  
ための行動を起こす

### 中学生・高校生年代 向けプログラム

中高生たちは、ジェンダーや差別に深い関心をもっています。視野が広がり、抽象的で複雑なことであっても考えることができる年代です。この年代だからこそ、ジェンダー平等というテーマに取り組むことに大きな意義があります。



#### ニュースの中の人間関係

ニュースで、女性と少女に対する差別や暴力がどのように表現されているかを考えます。女性有名人の結婚や妊娠に関する報道、女性スポーツ選手の扱い、虐待や性暴力のニュースなどにおいて、女性がどのように描かれているか、描かれている人たちの関係性などについて考察します。



#### 仲間を支える方法

学校生活等で実際にセクハラが起これば、また被害にあった友達から相談されたらどう対応すればいいでしょうか。相談コーナーの担当者という想定で、悩みの投稿にコメントを考えます。

ジェンダーの不平等に起因する差別が起こるしくみを理解した上で、仲間に対してできること、どんな言葉をかければいいのかを考えます。自分の安全を優先し、相談できるところや信頼できる大人への相談についても学びます。



#### キャンペーンをしよう

自分たちが解決したいテーマを社会に発信し解決する方法を考えます。一例として、中学生ではポスターキャンペーンを実施する場合があります。解決したいことを効果的に伝える方法を学びます。



### 中学生・高校生年代の声

#### 中学生の少女たちが、 周りから言われていること

- ・「女子なら、これぐらいのことできるよね」と誰でもできる仕事を押し付けられる。
- ・「消防士になりたい」と言ったら大人から止められた。
- ・走るのが速い男子は「すごい!」と言われるのに、女子だと「怪物だ」と言われる。
- ・「女子は見た目には気をつけるべきだね」と言われる。

#### 高校生年代の少女たちの声

友達同士で相談し合うことはあっても、解決するために相談できるところがあるって知らなかった。知っていたら、相談できた。これからは、友だちに相談されても不安じゃない。



少女が変われば、世界が変わる。

## 「わたしの声 と みんなの声」プログラム

18～25歳 大学生年代と若い女性  
向けプログラム

### 大多数の女性は何らかの被害を経験

日常、性差別や性暴力を経験している割合



女子高校生 62%



大学生年代 92%

大学生になると、アルバイトや就職活動、サークル活動などで行動範囲が広がり、さまざまな立場の人と接することが増えます。そこで性的な嫌がらせや不平等に遭遇しても、それにどう対応していいかわからないケースも多く見受けられます。就職、結婚、出産とライフイベントを多く控え、自分の人生設計をより具体的に考える年代でもあります。

ジェンダーの構造を考えるアクティビティを通して知識を身に付け、自分の価値観に向き合います。また、セクハラや性暴力から身を守る知識や対応策を学びます。

大人が理解し、取り組みを進める

### 保護者や教師、地域社会の理解を

身近にいる大人は、子どもたちのジェンダーの思い込みに影響を与えています。そして大人もまた、これまでの人生でジェンダーの偏りのある価値観を無意識に受け取っています。子どもの可能性を阻まないためにも、子どもに接する大人にはぜひ体験していただきたいです。

・2時間程度でプログラムを体験できます。

### プログラムを実施するために

このプログラムを実施できる指導者になるには、少女や女性の置かれている現状やジェンダーについて適切に理解することが大切です。また、子どもに相談されたときの対応など、安心・安全な環境でプログラムを実施できるように準備をします。

・1日研修(7時間)及び事前事後のオンライン課題

### 若い女性の声

『大学やバイト先でセクハラだと感じたことを、友達に話しても、「その程度のことはよくあることだよ～」と言われていた。プログラムに参加して、それは、問題だから解決することができるということを学び、行動に起こすことができた。そして、解決できた!』



### 大人の気づき

この研修を受講することで、日頃の自分のジェンダー意識を確認できた。日頃、小学生たちと関わることが多いので、まず自分の言動に気をつけたい。

自分が関わる年代の子どもの興味関心(アニメ、ドラマ、遊び)を知ること、その中のジェンダーバイアスを点検してみようと思う。そして、一緒に考えたい。



人との関係が描かれている絵を見ながら、安全か危険かを話し合い並べ替えていくワークの様子



## 外見や容姿が、少女や女性の可能性に影響を与えています

自分の容姿に自信が持てない日本の少女

# 93%

自分の容姿に自信が持てない少女の割合は世界平均54%であるのに対し、日本は93%という結果でした。これは世界でもっとも低い数値です。(ダヴの調査より)

多くの少女は、友達との会話やメディアの影響を受けて、自分を前向きにとらえられません。

「大好きなわたし」では、アクティビティ(ゲーム)を通して、等身大の自分を発見していきます。そして「一つの美しさ」「画一的な美のイメージ」とらわれていることに気づきます。子どもたちは、容姿や外見に自信が持てないと、やりたいことや将来の目標をあきらめてしまうことがあるため、このようなプログラムを通して自分を認め、自信を持てるようになることがとても大切です。子どもたちの**自己肯定感**を向上し、可能性を最大限に伸ばします。

### プログラム例



#### わたしのロールモデル

自分の憧れる人の特徴を声に出して伝え、輪の周りを走ります。私も!と思ったら、周りの人も一緒に走ります。みんなの意見を聞いてみると、人は人を見た目で判断していないことが分かってきます。



#### お姫様のリスト

お姫様の特徴は?みんなで意見を出し、人の意識の中には、画一的な美しさがあることを知ります。



#### 聞いて!私のお気に入り

折り紙に自分の「好きなところ」を書いて、言葉で友達に伝えます。「そうだね!」と肯定してもらえることで嬉しくなり、自信につながります。表情が明るくなり、声も自然と大きくなります。

### 学校の授業で

**先生の声** プログラム参加後の生徒の表情や声のトーンは明るくなり、積極的な発言が多くなるなど変化がありました。

**生徒の声** コンプレックスがあったけど、自分は自分のままでいいんだと思えました。(高1男子)

授業の様子を映像でご覧いただけます。



### コミュニティで

参加者は、自分のことを声に出して伝え、相手に受容してもらうことで、笑顔と自信が生まれます。

**保護者の声** 自分の言葉がけが子どもに、どんな影響を与えるか知りました。

**子どもの声** いいね!って言われて心がほっこりあったかくなりました。(小1女子)

### 企業研修で

日常では肯定されることの少ない大人だからこそ、人に肯定される、自分を見つめる機会になります。

**受講者の声** 自分にとって良い経験になりました。接客の姿勢、家族に対しての言葉がけも見直します。



### キーワード

過度なダイエット・思春期やせ症・痩せ願望の低年齢化・シンデレラ体重

ブスキャラ・ステレオタイプの理想の美しさ・黒髪信仰・見た目コンプレックスなど

### パーソナルケアブランドのダヴとガールスカウトが協働で開発した教育プログラム「大好きなわたし」

世界150の国と地域で展開中。日本では、ダヴとガールスカウトが協働し全国でプログラムを実施しています。2019年までに世界中で350万人以上、日本で5万人以上が体験。



わたしが変わる。  
未来が変わる。

girl scouts

## 「みんなの声 と わたしの声」参加者の意識変化



### 中学生の意識変化

北陸・東海地区の中学生女子75人の回答 (2019年)

Q. 性別により向き不向きがあると思う。

A. あると思う。



性別により、進路選択や行動をさまざまに  
られる必要はないことを理解したことが  
分かります。

Q. 差別や暴力を受けたら、助けを求める自信がある。

A. 自信がある。



参加する前は、誰かに「相談することができる」ということを考えられる  
少女は3分の1程度で、漠然とした不安があるようでした。プログラムを  
受けることにより、自分や友達が差別や暴力を受けたとき助けを求めを  
求めることができると知り、不安が軽減されたようです。

回答は、とても自信がある、自信があるの合計  
選択肢 とても自信がある、自信がある、どちらとも言えない、自信がない、全く自信がないの  
5択



### 指導者養成に参加した「おとなの意識変化」

- ・ジェンダーについての知識が増えてうれしい。(20代)
- ・子どもたちに実施する大切なのだが、親世代、祖父母世代に向けておこなうことも同じように大切だ。(50代)
- ・この研修を受けて、無意識に男女がすべきことを決めつけているなど、社会の中にあるジェンダーの不平等を認識するようになった。(40代)
- ・ジェンダーの不平等を当たり前のように受け入れてしまっている自分に気づいた。(60代)



### 女子高校生の声

女子高校生の声は、ジェンダーに関する女子高校生調査報告書  
2019でご覧になれます。



発行：公益社団法人ガールスカウト日本連盟

〒151-0066 東京都渋谷区西原1丁目40番3号

<https://www.girlscout.or.jp/>

この資料に関するお問い合わせ [stv@girlscout.or.jp](mailto:stv@girlscout.or.jp)

2020年4月発行